

2 大学のまち交流センター指定管理業務の総括及び今後の方向性

大学コンソ実施業務	京都市における総括・評価	指定管理者に求めていくもの
<b>指定管理業務</b> 1 講義、演習、会議等のための施設の提供 2 センターの維持管理に係る業務 ・施設の使用許可 ・使用料の徴収 ・広報、宣伝 ・施設の維持管理	・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、使用件数は減少しているが、感染拡大防止に取り組みながら、施設運営を行っている。 ・施設には、経年劣化状況が見られるものの、施設管理方法を原因とする大きな事故の発生事例はなく、安定的な施設運営を行うことができている。 ・人件費の高騰等、外的要因の影響を受けながらも、効率的に施設の運営を行うことができている。	①現在の大学を取り巻く状況や、大学や学生ニーズを背景を把握した上で、大学利用の減少に対する改善策を実施するなど、コンソや、施設本来の設置目的に立ち返った <b>サービスの質の向上</b> 。 ②引き続き、「大学利用」・「一般利用」を問わず、 <b>全ての利用者が</b> 快適かつ安全・安心に利用できる施設の維持・管理の実施。 ③ <b>更なる効率的な運営の実施</b> 。
3 大学に関する情報の収集及び提供 ・大学案内等、大学関連資料の収集、提供 ・ウェブサイト(まちづくり事例集)の運営	・各大学が提供する大学案内等の資料を施設内で閲覧に供している。 ・各大学が行う地域連携の取組事例、公開講座等をウェブサイトで提供している。	④各大学が発出している既存情報の提供に留まらず、 <b>個々の大学が持つ社会的資源の積極的な調査、収集及び地域社会への還元等</b> 。
4 大学と産業界、地域社会等の協力による豊かな地域社会の形成に資する調査及び研究並びに人材育成 ・京カレッジ事業	・社会的要請を踏まえつつ、大学間連携組織ならではの強みを生かした事業展開を行うことができている。 ・大学リレー講座など、新たな受講者の掘り起こしにも取り組んでいるが、特定の講座への受講者の集中や受講者層が固定化している。 ・加盟大学等の提供により、観光や伝統・文化を学べる講座が提供されている。	⑤リカレント教育の社会的要請の高まりを踏まえ、産官学地の連携の強みと特色を活かし、 <b>幅広い分野の人材育成に資することができるリカレント教育プログラムの実施</b> ⑥文化庁、市立芸大移転等を見据えた <b>科目提供の更なる充実</b> 。
その他 ・単位互換事業 ・インターンシップ事業 ・京都学生祭典 ・学まちコラボ事業 ・留学生誘致、支援事業 他	・大学間連携による京都で学ぶ魅力の向上や、まち全体がキャンパスとなり学生が成長できる環境づくりに取り組んでいる。 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受ける中、オンラインを活用するなど、新たな形での事業を展開している。	⑦ポストコロナを見据え、大学・学生のニーズを踏まえた <b>「京都ならではの学び」の充実</b> 。

大学のまち交流センター指定管理業務をはじめとするコンソ事業についても、はばたけ未来！京プラン2025(京都市基本計画)を軸に、事業等の充実を図っていく。

3 本市施設の今後のあり方

令和3年8月に策定した「行財政改革計画2021-2025」には、「公共施設マネジメントと資産の戦力的活用」が掲げられており、施設の総量を見直し、適正に維持管理することはもとより、新たな価値の付加・更なる魅力の向上も含めて、将来を見据えたこれからの時代にあった公共施設のより良い姿を実現するとされている。  
 そして、社会構造の変化、民間等の類似施設の充実を踏まえ、施設が持つ「機能」の今日的意義を改めて点検し、施設を保有する是非やサービスを維持し続けることの是非を適切に判断することとされている。  
 大学のまち交流センターについても、設置後21年が経過する中、本市の厳しい財政状況を踏まえ、また、「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進に当たって、当該施設にどのような機能が必要か、検討を進めていく。

● 次期指定管理業務検討の視点

1 京都市における今後の大学政策の方向性

(1) 現在の大学政策の推進体制

- (公財)大学コンソーシアム京都(以下、「コンソ」という。)との協働で策定した「大学のまち京都・学生のまち京都推進計画2019-2023」に基づき、大学コンソとの協働により推進している。
  - なお、推進にあたっては、「大学のまち京都・学生のまち京都推進会議(※)」において、計画の進捗管理を行っている。
- (※)京都市、コンソ、大学・学生、経済界、NPO、市民などで構成。

**<現計画の目指すべきビジョン>**  
**世界に誇る「大学のまち」「学生のまち」**  
**～オール京都で次の社会を支える担い手を育成～**

(ビジョンのイメージ)

- ① 開かれた大学
- ② 多様な学生
- ③ 地域との協働

個々の大学が個性を活かした教育活動を展開し、大学間連携により学びの環境を充実させ、大学の垣根を越えて学生が活動

<施策推進の6本柱>

- 1 京都で学ぶ魅力の向上
- 2 大学・学生の国際化の促進
- 3 大学の枠を超えた学生の活動の促進
- 4 学生の進路・社会進出の支援
- 5 大学との連携による京都の経済・文化・地域の活性化
- 6 国内外への魅力発信の強化

「インターカレッジ」

社会の変革に寄与する京都ならではのモデルを創造

(2) 「推進計画(計画期間:2019-2023)」の今後の方向性

- 上位計画である「はばたけ未来へ！京プラン2025(京都市基本計画)」と一体のものとして整理し、現行の「推進計画」の期間を「京プラン」と同様に2025年までとする。
- コロナ禍や大学教育を取り巻く環境の変化など、情勢に応じた新たな施策の方向性や、既存施策のフォローアップについては、引き続き、「大学のまち京都・学生のまち京都推進会議」の中での議論や意見等を踏まえ、検討・実施していく。
- また、これまで同様、コンソの中期計画とも連携を図っていく。

